科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61020 61057	教職研究（前期・火曜・１限） 教職論（Ａ）（後期・火曜・１限）	各２単位 前期・後期	2	講義	大城　進（非）

■テーマ　現代社会における教職の意義や教員の役割、教員の資質能力及び職務内容等について理解を深め、教職への意欲を高めると同時に、教職へ就くための心構えを養う。

■授業概要

この授業は、「教職課程コアカリキュラム」における「教育の基礎的理解に関する科目」の一つであり、教職を志望する学生にとっては最初に受講する科目である。講義を通して、教職というものを多角的に見る目と深く問うていく姿勢を養うことを目標とする。その際、教職を考えるうえで核となる知識や概念を学校や教師の現実に即して論じていく。講義に加えてビデオ視聴やグループ討議、発表なども行う予定である。教員の役割・資質能力・職務内容等を理解し、受講者が自ら志望した教職への意欲を高めつつ、自分自身が近い将来に何をすべきか、自身がどうあるべきかを考える主体的、積極的、協働的な学び手、将来の実践者となっていくための基礎を身につけることを目指す。なお受講にあたっては、受講者の授業への積極的な参加を求める。

なお、教職研究及び教職論は、それぞれ対象とする学生が異なることに注意すること。
それぞれの対象となる学生は以下の通り。
教職研究（前期・火曜・１限）：平成 27 年度以前入学生、平成 28、29 年度美術工芸学部、及び琉球芸能専攻入学生。
教職論（Ａ）（後期・火曜・１限）：平成 30 年度美術工芸学部、及び琉球芸能専攻入学生。

■到達目標

⑴ 教職の職業的特徴、社会的意義と教員に求められる資質能力を理解している。
⑵ 教員の職務内容や服務、研修、生涯学び続けることの意味、チームとしての学校内外の専門家等との協働・連携や家庭・地域との連携等について理解を深めている。
⑶ 教職の魅力と困難について理解を深め、教師に求められる基礎的資質を考察すると共に自己の適性等について顧み進路選択の機会としてこれから何をどうしていくか、見通しを持つことができる。

■授業計画・方法

第１回　：オリエンテーション～授業の概要説明と学習上の注意、教員免許取得の意義～
第２回　：教職とは何か①　学校教育と教師について
第３回　：教職とは何か②　職業的特徴と他の職業との違い
第４回　：教師像を探る①　教師像の変遷と社会が求める教師像（国・県・学校・子ども）
第５回　：教師像を探る②　専門職としての教師と専門性を高める仕組み（教員免許法）
第６回　：教師の役割①　　いつの時代にも求められる資質能力
第７回　：教師の役割②　　今後特に求められる資質能力、試験。
第８回　：教師の仕事①　　教科（学習）指導と学習指導要領
第９回　：教師の仕事②　　生徒指導と役割分担、チーム学校・協働
第１０回：教師の仕事③　学級（HR）経営と学年連携
第１１回：教師の仕事④　特別支援教育とインクルーシブ教育
第１２回：教師の仕事⑤　校務分掌と組織としての学校
第１３回：教員研修と服務並びに身分保障
第１４回：家庭・地域との連携並びに学校の役割
第１５回：試験。講義のまとめ　教職の意義と求められる教師の姿

※第７回及び第 15 回の授業時でペーパーテスト（もしくは期末レポート）を実施する。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

平成29年度以前入学生は、教育原理を履修済みであること。平成30年度入学生は教育原理を受講すること。

授業外においてもテキストを用いて学習してほしい。

■成績評価の方法・基準

【方法】平常点（合計30点）・毎回の小レポート（20点）、グループワークの結果（10点）
定期試験（ペーパーテスト（20点）もしくは期末レポート（20点））（合計40点）。

【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□テキスト：武田明典編著『教師と学生が知っておくべき教育動向』北樹出版、2017年

□参考文献等：以下の資料を含め、各時間の内容に関わる参考文献等は随時紹介する。

武田明典、嶋崎政男、村瀬公胤編著『現場で役立つ教育の最新事情』北樹出版、2012年。
秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門　改訂版』有斐閣、2015年。
当該学年度　文部科学省 全日本中学校校長会総会資料、同 全日本高等学校校長会資料。
中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（平成18年7月11日）」
中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（平成27年12月21日）」他。
文部科学省「教員をめざそう」。
文部科学省「魅力ある教員を求めて」。
沖縄県立芸術大学教職課程委員会『教職課程年報Vol.1』2017年3月。
沖縄県立芸術大学教職課程委員会『教職課程年報Vol.2（1）』2017年11月。
沖縄県「沖縄県教育振興基本計画（平成24年3月）」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61021	教育原理（A）（B） （A）クラス（火曜・２限） （B）クラス（水曜・２限）	各２単位 後期	1	講義	芳澤　拓也

■テーマ　この授業は、教育の理念、教育に関する歴史、思想を学ぶことを授業のテーマとしています。なお、この授業は「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」・「教育の基礎理論に関する科目（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）」であり、教職必修科目です。

■授業概要　【題目】人間形成と教育

中学校教員、高等学校教員は、生徒達の人間形成に関わる仕事をしています。その仕事について考えていく際、私たちは教育の分野で蓄積されてきた遺産について学習する必要があります。また同時に、今日の教育現場を覆う「教育における危機」についての認識を深めていく必要があります。この授業では、① 「教育」における基本的理念や概念について教育学の分野における思想、理念、歴史の蓄積をふり返りながら理解していくこと、② 現代の「教育における危機」がどのようなものとして登場しているかということの二点を「人間形成」をキーワードにしつつ、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

なお、この講義は美術工芸学部、琉球芸能専攻及びH27年以前入学の音楽学部の学生を対象としています。

■到達目標

① 教育分野に関わる理念、歴史、思想について基本概念を押さえ、一定程度理解し、他者に解説することができる。
② 日本の戦後の教育現場の変遷をめぐる諸事象について論理的に記述することができる。

■授業計画・方法

	授業内容	準備学習
1	ガイダンス：「教育原理」という科目についてー	ワークを行います。軽装で参加してください。
2	「人」と環境ーアマラとカマラらの事例を考えるー	授業後、授業内容のふりかえりを行うため、ふりかえりシートを記入します。
3	幼児の育ちにみる「自己」と「他者」ー発達と人間形成ー	
4	子どもの発見ー「小さな大人」から「子ども」へー	
5	東洋と西洋ー「近代」における学校教育ー	
6	「教育における危機」の変遷ー「校内暴力」ー	
7	「教育における危機」の変遷ー仲間関係の変遷から見た「いじめ・不登校」ー	
8	「教育における危機」の変遷ー学校、教師と「いじめ・不登校」ー	
9	人間形成における仲間関係の意味について	
10	「居場所」と「アイデンティティ」	
11	現代の「教育における危機」ー「身体へ向かう暴力」ー	
12	近代公教育の理念としての平等	
13	貧困と学校	
14	青年期と「家族」	
15	学校とキャリア形成	

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

授業時間外において、情報を収集したり、読書をしたりしてください。

■成績評価の方法

【方法】平常点（20%）、小テスト、レポート（80%）。平常点は授業への参加姿勢およびふりかえりシートの内容。
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

J.A.L.シング『野生児の記録 1 狼に育てられた子』福村出版、1977年。NHK「こども」プロジェクト『裸で育て 君らしくー大阪・アトム共同保育所』NHK出版、2003年、フィリップ・アリエス『＜子ども＞の誕生』みすず書房、1980年、藤田英典他『教育学入門』岩波書店、1997年、村山士郎他『いじめ自殺ー6つの事件と子ども・学校のいま』国土社、1999年、森田洋司『いじめとは何か』中公新書、2010年、アンソニー・ギデンズ『モダニティと自己アイデンティティ』ハーベスト社2005年、中島純、芳澤拓也『人間形成と教育』野島出版、2004年、上地　完治他『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版株式会社、2015年発行予定など。

授業は、基本的にレジュメおよび資料によって進めます。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61022	教育心理学　（火曜・２限）	２単位 前期	２	講義	松田　盛雄 島袋　恒男(非) 嘉数　朝子(非)

■テーマ　　生徒の心身の発達及び学習の過程を理解する。

■授業概要

教育活動を理解する上で重要な生徒の心身の発達及び学習の過程について、発達段階の心理的特性を踏まえて教育活動を支援するための知識や心理的援助技法を紹介する。また、最近の学校現場で重要課題となっている「やる気の育成」「新しい評価法の実践」「不適応を呈する子どもの指導」などについて最近の研究に関する情報を提供し、検討する。

この授業は、「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」・「教職の基礎理論に関する科目（幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程）」に位置づけられている。

■到達目標

・教育心理学的視点から「授業」や「教育活動」を分析し、効果的な指導方法を創意工夫できるようになる。
・青年期の各時期における発達特性を理解し、発達的視点から学級経営や生徒指導等に活用できるようになる。
・学習を支える動機づけなどの概念を理解し、自主的な学習を促す手法など具体的場面で活用できるようになる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス：「教育心理学」という授業について（担当：松田盛雄）
2. パーソナリティを理解する①（理論と測定方法）（担当：松田盛雄）
3. パーソナリティを理解する②（学齢期の発達との関係）（担当：松田盛雄）
4. 不適応と心理臨床①（思春期に発生しやすい精神的問題）（担当：松田盛雄）
5. 不適応と心理臨床②（不登校・いじめ・非行と生徒指導）（担当：松田盛雄）
6. 発達障害とは何か（学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害）（担当：松田盛雄）
7. 発達とは何か（発達段階と発達課題）（担当：嘉数朝子）
8. 知的能力の発達（発達と測定、学力と創造性）（担当：嘉数朝子）
9. 社会性の発達（道徳性、親子関係、仲間関係）（担当：嘉数朝子）
10. 学級集団の心理学（教師との関係、集団構造）（担当：嘉数朝子）
11. 教育評価（指導と評価の一体化）（担当：嘉数朝子）
12. 学習の心理（学習理解と問題解決、アクティブラーニング）（担当：島袋恒男）
13. 授業の心理学（教授スタイルと生徒の学び）（担当：島袋恒男）
14. 学習意欲と学力（担当：島袋恒男）
15. 授業のまとめ（動機づけ、学習意欲、パーソナリティー、社会性、不適応の心理等についてのグループ討議）及び期末試験（担当：松田盛雄）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・<u>２年次以上が履修条件である。</u>
・講義はシラバスに沿って進めるので、教科書の該当章をきちんと予習した上で講義に参加すること。
・グループワークを多く取り入れるので、討議には積極的に参加すること。
・課題レポートを科するので、指示に従って期日までに提出すること。

■成績評価の方法・基準

【方法】評価は、平常点（20%）、課題レポート（40%）、定期試験（40%）などを総合的に判断して行う。
平常点は授業への参加状況や参加意欲で評価する。課題レポートはコンピュータを使用して作成し提出する。
【基準】「到達目標」を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教 科 書：『たのしく学べる最新教育心理学ー教職にかかわるすべてのひとに』　桜井茂男編　図書文化
□参考文献：『教職をめざすひとのためのー発達と教育の心理学』　富永大介他編著　ナカニシヤ出版
『生徒支援の教育心理学』　前原竹子編著　北王路書房

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61023	教育方法（A）（金曜・２限）	２単位 後期	2	講義	芳澤　拓也

■テーマ　授業をおこなうにあたって必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。

■授業概要　**【題目】どのように「授業」を作りますか？**

ここでは、「授業」についての基礎的な考え方と技術を学習することを目標にしています。まず、教師が「授業のねらい」を定め、授業計画を立て、学習指導案を作成し、様々な教育方法と指導技術を駆使して「授業」を行っていることを理解していきます。次に、グループを組みつつ実際に「授業（模擬授業）」を行います。その中で、「授業」をつくる・実践するというイメージを捕まえていきたいと思っています。芸術の専門家ではない私ですが、可能な限り美術科、音楽科の授業実践に活用できる学習理論や指導技術を考察して、芸術教科を担当する教師としての基礎的・実践的な力量を身につけることができればと考えています。この授業は、「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」・「教育課程及び指導法に関する科目（教育の方法及び技術）」となっています。

なお、この講義は、美術工芸学部、琉球芸能専攻、H27 年以前入学の音楽学部の学生を対象としています。

■到達目標

①授業を構想し、学習指導案を書くことができるようになる。
②教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を理解する。
③他者と協力して授業を構想、実践することができるようになる。

■授業計画・方法

	授業内容	準備学習
1	ガイダンスー教えられる側から教える側へー	特になし
2	授業の構造ー導入・展開・まとめー	授業後、授業内容のふりかえりを行って下さい。この授業では、模擬授業の実践へ向けてグループ活動を予定しています。グループリーダーを中心に、生産的な意見交換、批判、援助と支援を可能にする関係作りを意識して欲しいと考えています。また、授業内外で話合いが要求されます。議論を深めるためにも、広く社会へ向けてセンサーを広げて欲しいと考えています。
3	教材の工夫と授業展開	
4	授業構想・展開と学習指導要領ー美術ー	
5	授業構想・展開と学習指導要領ー音楽ー	
6	授業の目的と内容	
7	グループ学習の意義ー知の共同化・知の生産ー	
8	発達障がいのある生徒と授業	
9	模擬授業へ向けてー授業の構想	
10	学習指導案の書き方	
11	検討・現場教師の学習指導案	
12	教育機器、板書計画、机の配置	
13	アクティブラーニング	
14	模擬授業①ー美術科ー	
15	模擬授業②ー音楽科ー	

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

教育原理を履修済みであること。

この授業では、グループ活動や模擬授業等、みなさんの自主的な参加を求めるワークを行う予定です。

■成績評価の方法

【方法】平常点（20%）、模擬授業、作成した学習指導案、模擬授業にかかわるレポート（80%）。
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。他の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61023	教育方法（B）	２単位　後期 集中	2	講義	小嶋　季輝　（非）

■テーマ　　教育の方法及び技術

■授業の概要

ある人の知識を他の人に伝える。このような知識の伝達は、教育において当たり前に行われているが、実は非常に困難であり、不可能ともいえる行為である。しかしながら、教育に従事する者は、その工夫と研究により、困難を取り除き、不可能を可能としてきた。本講義では、これら工夫と研究により生み出された教育の方法と技術を、歴史や発展といった背景的知識および機能や役割といった理論的知識を踏まえつつ、実践的知識として、現代的な課題への有効性を検討していく。

なお、この講義は平成 28 年度以降の度音楽文化専攻、音楽表現専攻入学生を対象としたものである。

■到達目標

(1)　知識伝達の困難性を適切に認識し、教育の方法と技術がいかなる目的をもって生み出されてきたかについて説明できる。

(2)　歴史や発展および機能や役割といった教育方法に関する基礎を理解した上で、教育方法に関連する応用的な課題群・問題群に自分なりの答えを導くことができる。

■授業計画・方法

第１回　：教育方法の普遍的課題：他者に知識は伝わるか
第２回　：教育方法とは：教育実践の論理性と組織性と体系性
第３回　：教育方法の歴史的変遷：教育方法の発展とその全体像
第４回　：教育方法の代表例：代表的な教育方法とその現代的意義
第５回　：視聴覚教育：教育方法としての非言語性知識伝達
第６回　：教育工学：教育における効果的方法と効率的方法
第７回　：メディアと教育：教育と教育方法の拡張
第８回　：情報教育：社会による現代的リテラシーの要請と教育方法
第９回　：総合的な学習の時間：分科的学習及び合科的学習と教育方法
第１０回：授業論：学びは作れるか
第１１回：学習環境論：教室は制約か可能性か
第１２回：教材論：知識に決まった形はあるか
第１３回：教育評価論：いつ誰が何をどう評価するか
第１４回：教師論：教師は教えているのか学んでいるのか
第１５回：教育方法の今日的課題：学び得た力は学ぶ力となるか（**定期試験は実施しない**）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

グループワークを中心に授業が進んでいくこととなるため、授業内外において、グループ内での足並みを揃えるための努力をすること。

■成績評価の方法・基準

【方法】

小テスト(40%)：講義内容について、各回小テストを行う。

レポート(60%)：講義全体の内容について、レポートを課す。

【基準】

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

教科書は使用しない。各週講義テーマに沿ったテキストを随時配布する。
参考文献については各週講義テーマに沿った参考書を講義内で適宜紹介する。

・「中学校学習指導要領」（平成20年3月告示/平成27年3月一部改正）
・「中学校学習指導要領解説 音楽編」（平成20年7月公表）
・「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示）
・「中学校学習指導要領解説 音楽編」（平成29年6月公表）
・「高等学校学習指導要領」（平成21年3月告示）
・「高等学校学習指導要領解説 音楽編」（平成21年7月公表）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61024	情報処理教育（A）（B） Aクラス（前期金曜・２限） Bクラス（後期金曜・１限）	各１単位 前・後期	1	講義	谷口　祐治（非）

■テーマ　　IT 活用による教材及び校務文書等課題作成

■授業概要

講義前半では、パソコンの基本操作をはじめ、文書作成、及びプレゼンテーション用の資料作成、活用方法を学習し、これらの技術を「教材」、「行事案内」、「学級新聞等」の作成に活かしていけるようにする。さらに、効果的な教材作成のため写真、音声、動画といったパソコンならではの素材を活用する方法を学ぶ。講義後半では、各自テーマを決定し、ワードプロセッサとプレゼンテーションソフトを用いた課題制作及びその発表を行う。

なお、この講義は、平成 29 年度以前入学生を対象としたものである。

■到達目標

（1）ワードプロセッサ、プレゼンテーションソフトなどの基本的な操作ができる。
（2）ワードプロセッサ、プレゼンテーションソフトなどを用いて効果的な資料作成ができる。
（3）インターネットを利用して情報収集を行うことができる。
　　教育現場において必要とされる情報技術の活用法と基礎的な知識の習得を目的とする。

■授業計画・方法

第1回：　講義ガイダンスとパソコンの基本操作
第2回：　学校等で使用する行事案内文の作成(1)ー学校現場で活用される学級新聞ー
第3回：　学校等で使用する行事案内文の作成(2)ー学級新聞の役割ー　　＊案内文の作成を題材にwordの基礎的な操作を学ぶ
第4回：　写真・イラスト・表などを使用した効果的な文書作成(1)ー学級通信の構成ー
第5回：　写真・イラスト・表などを使用した効果的な文書作成(2)ー構成の工夫ー
＊学級新聞の作成を題材に段組みや図表を用いたwordの応用的な操作を学ぶ
第6回：　インターネットを利用した情報検索と教育現場における情報倫理
＊情報検索及び著作権，プライバシー等の情報倫理について学ぶ
第7回：　プレゼンテーションソフトを利用した教材の作成
第8回：　マルチメディア(写真，イラスト，動画，音声，アニメーション等）の取り扱い方法とプレゼンテーションにおける活用法
第9回：　プレゼンテーションソフトを利用した教材の作成（スライドの構成）
第１０回：プレゼンテーションソフトを利用した教材の作成　（配布資料の作成）
＊マルチメディアを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ
第１１回：課題制作ー内容の構成ー
第１２回：課題制作ープレゼンテーションソフトの活用ー
第１３回：課題制作ーマルチメディアの活用ー
第１４回：制作課題発表ー提示資料の効果ー
第１５回：制作課題発表ー提示資料の効果ー、省察（リフレクション）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・ この授業は、キーボードやマウスの取り扱い方法や漢字入力等文章の入力方法を知っている者を対象としている。全く操作ができない場合、コンピューター情報論の単位取得後受講することが望ましい
・ 課題の保存のためＵＳＢフラッシュメモリが必要。

■成績評価の方法・基準

・　授業への参加意欲（40%）・制作課題の状況・内容（60%）をふまえて評価する。ただし、制作課題発表においては、資料作成を通じたソフトウエアの操作方法の習得が目的であり、伝え方の良し悪しは評価にいれない。

■教科書・参考文献（作品）等　　特になし（講義資料を随時配布する。）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61025	教育行政（木曜・1限）	2単位 前期	3	講義	照屋　信治（非）

■テーマ

現代公教育制度の意義、原理及び構造について、その法的及び制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、そこに内在する課題を理解する。また、学校安全、学校と地域との連携についての理解を深める。

■授業の概要

上記のテーマや以下の達成目標に到達するため、具体的な事例として、以下の問題群を検討してゆく。八重山教科書問題、朝鮮学校高校授業料無償化問題、学校選択制度、学区制の問題、沖縄県の高校再編問題、七生養護学校の性教育裁判、子どもと貧困など。授業方法としては、授業の前半は講師による問題の解説をおこない、後半は学生による意見交換・議論・課題作成などを行う。

■到達目標

①公教育の原理及び理念を理解している。
②公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。
③教育制度を支える教育行政の理念及び仕組みを理解している。
④教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。
⑤地域との連携及び協働による学校教育活動の意義並びに方法を理解している。
⑥地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。
⑦学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、学校保健安全法に基づき、危機管理並びに事故対応を含む学校安全の必要性を理解している。
⑧生活安全、交通安全及び災害安全等の各領域の安全管理並びに安全教育の両面から具体的な取組を理解している。

■授業計画・方法

1．七生養護学校の性教育裁判について（オリエンテーション、教育行政の中立性について）
2．八重山教科書問題を考える―育鵬社公民教科書を読む―①（教科書採択制度について）
3．八重山教科書問題を考える―教育委員会の役割を学ぶ―②（教育委員会制度について）
4．2007 年の沖縄県民大会を考える（教科書検定制度について）
5．学習指導要領について（その歴史、法的拘束力について）
6．アメラジアンの教育権について（教育基本法を考える）
7．在日コリアンの教育をめぐって①（教育財政、高校授業料無償化について）
8．在日コリアンの教育をめぐって②（在日コリアンと学校の歴史的経緯）
9．在日コリアンの教育をめぐって③（多文化共生教育を保障する制度）
10．公立小中学校の学校選択制度を考える（学校選択制度について）
11．高校入試を考える―全入をどう考えるか―（6・3・3制度を考える）
12．沖縄県の公立高校再編計画を考える（学区制度について）
13．子どもと貧困（その概略、子どもを支える仕組み、学校と地域の連携）
14．学校安全について（学校での事故と訴訟、学校の取り組み）
15．**定期試験および全体のまとめ**（大阪の教育行政基本条例を考える）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・教師や学生間の対話を重視した授業を行う。提示されたテーマについて意見をまとめ、発表し、議論すること。
・各授業回に提示されたキーワードをネット、書籍でチェックした上で受講すること。

■成績評価の方法・基準

【方法】平常点６０%、テスト３０%、レポート１０%。　平常点は、授業での課題点であり、発言内容、授業態度も含まれる。

【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□**教 科 書**：使用しない

□**テキスト**：教師作成のレジュメをテキストとして用いる。

□**参考文献**：参考書等は各回の授業で提示する。

『沖縄で教師をめざす人のために』（上地完治・他編、共同出版、2016 年）

『教育行政学−改訂新版』（勝野正章，藤本典裕、その他編著、学文社、2015 年）など。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61026	学校カウンセリング（A）（B） （A）クラス（火曜・２限） （B）クラス（水曜・２限）	各２単位 後期	３	講義	松田　盛雄

■テーマ　学校における教育相談の意義及び理論を理解する。

■授業概要

教育相談は、生徒が自己理解を深めたり学校での好ましい人間関係を築けるよう適応力を育みつつ、個性を伸長し人格の成長を支援する教育活動である。本講義では、学校現場で多発する不登校、いじめ、非行などの多種問題に対し、それを解決するための教師の対応方法について、学校カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を習得する。また、事例の理解や解決方法の検討においてはグループ討議を行い発表する。問題解決の対応だけでなく、「予防的・開発的心理教育」の包括的な指導援助の仕方を紹介する。

なおこの授業は、「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」・「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目（教育相談の理論及び方法）」に位置づけられている。

■到達目標

・教育相談の意義や課題を理解し、カウンセリングマインドの考え方や必要性を認識する。
・生徒の不適応や問題行動のシグナルに気づき、背景要因や行動の意味を把握する方法を習得する。
・受容、傾聴及び共感的理解などカウンセリングの基礎的姿勢や面接技法を身につける。
・事例検討により多様な問題の理解や解決に向けて対応できる指導力や実践力を身につける。

■授業計画・方法

1．ガイダンス：「学校カウンセリング・教育相談」とは何か
2．生徒指導（進路指導含む）と教育相談の関係性、教育相談の進め方
3．思春期・青年期の発達課題
4．カウンセリング理論と技法（ロジャーズ理論）①
5．カウンセリング理論と技法（ロジャーズ理論）②
6．事例を通して学ぶー問題理解と解決方法（不登校・ひきこもり）①
7．事例を通して学ぶー問題理解と解決方法（不登校・ひきこもり）②
8．事例を通して学ぶー問題理解と解決方法（いじめ）①
9．事例を通して学ぶー問題理解と解決方法（いじめ）②
10．事例を通して学ぶー問題理解と解決方法（非行）
11．発達障害の理解と支援のあり方（自閉症スペクトラム障害、ＡＤＨＤ，ＬＤ）①
12．発達障害の理解と支援のあり方（自閉症スペクトラム障害、ＡＤＨＤ，ＬＤ）②
13．予防・開発的心理教育ー価値観・視点を変える
14．予防・開発的心理教育ー自尊感情の向上
15．授業のまとめ及び期末試験

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・**履修は３年次以上、教育心理学を履修済みであること。**
・講義用レジュメや参考資料を多く配布するのでファイルにして活用すること。
・講義は技法の習得に時間を割くので、予め配付した資料は十分に読み込んで理解した上で講義に参加すること。
・ロールプレイや事例検討などに積極的な姿勢で取り組むこと。
・課題レポートを課するので、指示に従って期日までに提出すること。

■成績評価の方法・基準

【方法】評価は、平常点（20%）、レポート（40%）、定期試験（40%）などを総合的に判断して行う。
平常点は授業への参加状況で判断する。レポートはコンピュータを使用して作成し提出する。
【基準】「到達目標」を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教 科 書：教科書は指定しない。教材は講義の際に配布する。
□参考文献：『やってみようソーシャル・スキル・トレーニング３３ー学級経営に生かすＳＳＴ』新里健他著 グリーンチャット

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61027	教育課程（A）（B） （A）クラス（水曜・１限） （B）クラス（木曜・２限）	各２単位 前期	2	講義	芳澤　拓也

■テーマ　教育課程の意義と教育課程の編成について理解する。
なお、この授業は、「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」・「教育課程及び指導法に関する科目（教育課程の意義及び編成の方法）」となっています。

■授業概要　【題目】カリキュラムって何だろう。

この授業では、教育課程の意義と教育課程の編成について理解することを目標としています。具体的には、教育の目的である理想とする人間の形成を実現するためには、どのような教育内容を多くの文化遺産から選択し、準備したらよいのか（教育内容）、その教育内容を子どもの発達段階に応じてどのように並べていくとよいのか（教育課程）、各学年の教育活動の計画となる教育課程を編成するとき基準とされるものは何か（学習指導要領、教科書等）について考察したいと考えています。その際、現代にいたる歴史的・社会的文脈の中でどのような教育課程が構想されてきたかという視点を大切にしていきます。

なお、この講義は、美術工芸学部、琉球芸能専攻、H27 年以前入学の音楽学部の学生を対象としています。

■到達目標

①教育課程について，その意義を説明することができる。
②効果的な教育課程編成を構想、分析することができる。

■授業計画・方法

	授業内容	準備学習
1	ガイダンス：「教育課程」という授業について	特になし
2	教育課程の影響力	授業後、授業内容のふりかえりを行って下さい。 また、この授業ではグループ活動を予定しています。グループリーダーを中心に、授業内外で話合いを積み重ねて下さい。
3	経験中心カリキュラムと教科中心カリキュラム	
4	教育課程をめぐる歴史①ー戦前から戦後へー	
5	教育課程をめぐる歴史②ー教科中心カリキュラムー	
6	「ゆとり教育」以降、現行カリキュラムまで	
7	隠れたカリキュラム	
8	外国のカリキュラム	
9	「資質・能力」とカリキュラム	
10	中学校・高等学校の音楽科の目標と内容	
11	中学校・高等学校の美術科の目標と内容	
12	カリキュラムの構造	
13	カリキュラム・マネジメント	
14	教育課程の構想・分析ー年間計画を理解するー	
15	教育課程の構想・分析ー音楽科・美術科の教育課程を編成するー	

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

教育原理を履修済みであること。
この授業では、グループ活動等、みなさんの自主的な参加を求めるワークを行う予定です。

■成績評価の方法

【方法】平常点（20%）、グループワーク、小テスト、レポート（80%）
平常点は授業への参加意欲、及び課題の提出状況等で総合的に評価します。
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。他の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61028	生徒指導論（進路指導含む）	２単位 後期	２	講義	松田　盛雄

■テーマ　　生徒指導及び進路指導の理論や具体的方法を学ぶ

■授業概要

学校現場で多発する不登校、いじめ、非行などの多様な問題に対し、その背景要因を分析して具体的な解決方法を考え、他の教員及び関係機関と連携しながら組織的に指導を進めるために必要な基本的知識や技術を学ぶ。社会的変化による家族の養育力弱体化を背景要因とした問題や、学校現場での生徒集団の関係性から発生する問題などに対し、教師はどう援助・指導するのか、また、将来の生活設計を明確にして職業観や生き方の確立に向けて具体的にどう指導していくかなど、生徒指導及びキャリア教育に関して、事例検討や指導案作成などを通して基本的知識とその活用方法について学ぶ。

なお、この授業は、「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」・「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目（生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法）」に位置づけられている。

■到達目標

・学校で発生する多種の問題に対応する生徒指導上の基本的理論を理解し、課題への具体的対応方法を身につける。
・多くの事例に即して学び、多様な個性を持つ生徒に対応できる柔軟な指導力や実践力を身につける
・生徒個々がその能力をさらに伸ばせるような進路選択ができるようキャリア教育の指導方法を身につける。

■授業計画・方法

1．ガイダンス：「生徒指導及び進路指導」について説明
2．生徒指導及び進路指導の意義と内容
3．生徒指導及び進路指導における教育相談
4．問題行動の理論と実際・対応①（生徒の不適応行動：不登校と引きこもり）
5．問題行動の理論と実際・対応②（いじめの問題）
6．問題行動の理論と実際・対応③（基本的生活習慣と非行）
7．問題行動の理論と実際・対応④（学校不適応と発達障害）
8．生徒指導の実際ー対人関係能力を育てる①（言語でのコミュニケーションの仕方）
9．生徒指導の実際ー対人関係能力を育てる②（自尊感情を高める）
10．生徒指導の実際ー対人関係能力を育てる③（自己主張の仕方：アサーショントレーニング）
11．生徒指導の実際ー対人関係能力を育てる④（問題解決の仕方：ステップ&ケース）
12．進路指導の理論と指導ー進路指導と自分探し
13．進路指導の理論と指導ーキャリア教育
14．高等学校における中途退学・不本意進学問題
15．授業のまとめ及び期末試験

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・**教育心理学を履修済みであることが望ましい。**
・講義に関する資料や教材は可能な限り前の授業で配布するので、資料を予習してから講義に参加すること。
・事例討議などグループワークを多く取り入れるので、議論には積極的に参加すること。
・課題レポートを科するので、指示に従って期日までに提出すること。

■成績評価の方法・基準

【方法】評価は、平常点（20%）、課題レポート（40%）、期末試験（40%）などを総合的に判断して行う。
平常点は授業への参加状況や参加意欲で評価する。課題レポートはコンピューターを使用して作成し提出する。
【基準】「到達目標」を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教 科 書：教科書は指定しない。教材は講義の際に配布する。
□参考文献：『生徒指導提要』文部科学省 教育図書
『生きる力を育む生徒指導』河野壮子他編著 北樹出版　『生徒指導・進路指導の理論と実際』河村茂雄著 図書文化社

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61051	美術科教育法Ⅰ	２単位 後期	2	講義	瑞慶山　昇（非）

■テーマ　　中学・高等学校における美術教育について理解する。

■授業概要

美術教育に関する基礎的な理論や、美術教育の歴史の流れについて学ぶ。また、 情報機器を使った学習の可能性について理解する。

■到達目標

⑴中学校美術、高等学校芸術（美術）の学習指導要領に示された教科の目標及び内容を理解している。
⑵学習評価の考え方を理解している。
⑶授業における情報機器活用の効果を理解している。

■授業計画・方法

基本的には講義による授業となるが、内容によっては、演習等も含めたものとなる。

	内　容
１	ガイダンス、授業概要
２	美術教育の特徴
３	美術教育の歴史
４	戦後の学習指導要領の変遷
５	学習指導要領（目標、各学年の目標及び内容）
６	学習指導要領（指導計画の作成と内容の取扱い）
７	表現活動の内容と指導
８	鑑賞活動の内容と指導
９	指導と評価の一体化、学習指導のＰＤＣＡ
１０	評価の方法
１１	美術表現の発達過程
１２	生徒が主体的に学ぶ授業
１３	美術科における情報機器活用の有効性
１４	美術館等との連携（地域の人材、施設設備の活用）
１５	まとめと課題

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

生徒にとって「美術」を学ぶことはどのような意義を持つか、指導する立場として課題意識をもって臨むこと。

■成績評価の方法・基準

【方法】レポート試験（70%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書　参考文献等

中学校学習指導要領（29 年 3 月公示　文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月公示　文部科学省）
中学校学習指導要領解説(29 年 6 月 文部科学省)、高等学校学習指導要領解説 美術編(平成 21 年 7 月 文部科学省)

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61052	美術科教育法Ⅱ	４単位 通年	3	講義	瑞慶山　昇（非）

■テーマ　　学習指導要領を踏まえた具体的な教育実践力を身につける。

■授業概要とねらい

中学校美術・高等学校芸術（美術）における、年間指導計画作成や、学習支援活動と評価を行うための基礎的な技能を全般的に学び、グループワークで教材研究、資料の収集、指導案作成、及び模擬授業を行う。また、 情報機器を活用した授業について取り組む。

■到達目標

(1)表現領域と鑑賞領域の題材編成のあり方を理解し、年間指導計画が作成できる。
(2)表現及び鑑賞の指導から評価に至るまで授業を設計し、学習指導案を作成することができる。
(3)情報機器を活用した授業実践ができる。

■授業計画・方法

[前学期]		[後学期]	
1	ガイダンス、授業概要	1	発達段階及び個に応じた指導と評価
2	美術科経営の実際 （学習指導要領、美術科経営計画、年間指導計画）	2	表現（絵画・版画）模擬授業のためのグループ協議
3	指導案作成上の基本事項 （目標、評価、導入、展開、まとめ）	3	表現（絵画）模擬授業と授業評価
4	情報機器を活用した授業づくり	4	表現（版画）模擬授業と授業評価
5	表現（絵画・版画）領域の授業実践例研究	5	表現（彫刻・立体）模擬授業のためのグループ協議
6	表現（絵画・版画）領域の資料収集と指導案作成	6	表現（彫刻）模擬授業と授業評価
7	表現（絵画・版画）領域の指導案評価	7	表現（立体）模擬授業と授業評価
8	表現（彫刻・立体）の授業実践例研究	8	表現（デザイン・工芸）模擬授業のためのグループ協議
9	表現（彫刻・立体）領域の資料収集と指導案作成	9	表現（デザイン）模擬授業と授業評価
10	表現（彫刻・立体）領域の指導案評価	10	表現（工芸）模擬授業と授業評価
11	表現（デザイン・工芸）領域の授業実践例研究	11	鑑賞（対話型・アートゲーム） 模擬授業のためのグループ協議
12	表現（デザイン・工芸）領域の資料収集と指導案作成	12	鑑賞(対話型)　模擬授業と授業評価
13	表現（デザイン・工芸）領域の指導案評価	13	鑑賞(アートゲーム)　模擬授業と授業評価
14	鑑賞領域の授業実践例研究	14	模擬授業の総括
15	鑑賞領域の資料収集と指導案作成（前期まとめ）	15	表現領域と鑑賞領域の有機的な関係性（後期まとめ）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

「教育原理」を履修済みであること。

■成績評価の方法

【方法】レポート試験（60%）、模擬授業の発表内容（40%）
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

中学校学習指導要領（29年3月公示　文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成21年3月公示文部科学省）
中学校導要領解説（29年6月　文部科学省）、高等学校学習指導要領解説　美術編（平成21年7月文部科学省）

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61053	美術科教育法Ⅲ	２単位 前期	4	講義	瑞慶山　昇（非）

■テーマ　学習指導要領に基づきながら生徒の表現力や鑑賞力を高めるための手法を学ぶ。

■授業概要とねらい

中学校美術・高等学校芸術（美術）における、年間指導計画作成や、学習支援活動と評価を行うための基礎的な技能を全般的に学び、グループワークで教材研究、資料の収集、指導案作成、及び模擬授業を行う。また、 情報機器を活用した授業について取り組む。

■到達目標

（1）表現領域と鑑賞領域の題材編成のあり方を理解し、年間指導計画が作成できる。
（2）表現及び鑑賞の指導から評価に至るまで授業を設計し、学習指導案を作成することができる。
（3）情報機器を活用した授業実践ができる。

■授業計画・方法

	内　容
1	ガイダンス、授業概要
2	中学校・高等学校学習指導要領の理解
3	美術の学習における動機付けと教材開発
4	表現（絵画・版画）の資料収集と教材作成
5	表現（絵画・版画）教材のプレゼンテーション
6	表現（彫刻・立体）の資料収集と教材作成
7	表現（彫刻・立体）教材のプレゼンテーション
8	表現（デザイン・工芸）の資料収集と教材作成
9	表現（デザイン・工芸）教材のプレゼンテーション
10	鑑賞（対話型・アートゲーム）の資料収集と教材作成
11	鑑賞（対話型・アートゲーム）教材のプレゼンテーション
12	情報機器を活用した指導の実践例
13	情報機器を活用した指導法をグループで検討
14	情報機器を活用した指導法のプレゼンテーション
15	まとめと課題

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

資料収集を主体的に行い、より効果的な指導工夫に取り組むこと。

■成績評価の方法

【方法】レポート試験（60%）、プレゼンの内容（40%）
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書参考文献（作品）等

中学校学習指導要領（29年3月公示　文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成21年3月公示　文部科学省）
中学校学習指導要領解説（29年6月　文部科学省）、高等学校学習指導要領解説　美術編（平成21年7月　文部科学省）

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61032	工芸科教育法	４単位 通年	3	講義	赤嶺　善雄（非）

■テーマ　高等学校芸術科工芸における教育目標および育成が目指される資質や能力を理解することを基礎にして、学習指導要領を理解し、適切な学習指導案が書け、好ましい授業を実践できる能力を習得する。また、授業を計画・実践する際に芸術領域のうちの工芸分野の特徴や意義を授業内容に関連づける能力も身につける。

■授業概要

各回のテーマに応じた資料講読を通しての議論を主として、学習指導案作成や模擬授業等の演習も行う。毎回、授業の最後に、理解度を測るリアクションペーパーを書いて提出させ、次回の冒頭で、それを材料にした「ふり返り」を行ない理解度を深める。受講生には、これまでの工芸についての学習成果とこの科目履修で得た知識を基に、実際に学校現場で実践することを想定して学習指導案を作成させ、それを受講生全員で共有し、より良い指導案に高めていけるよう議論する。模擬授業は自ら作成した指導案の一部を切り取って実施する。受講生全員が指導者を経験し、翌週、受講生全員で振り返り評価する。

■到達目標

⑴ 学習指導要領の内容を理解し、それを指導の展開や評価に結びつけた授業を構想・実践できる。
⑵ 高等学校芸術科工芸における学習方法を理解し、適切な教材や情報機器を活用した授業を構想・実践できる。
⑶ 芸術分野にのみならず社会における工芸の意味や役割を理解し、これらを授業に関連づけることができる。

■授業計画・方法

［前学期］		［後学期］	
1	オリエンテーション（ シラバス確認 ） およびレポート課題「教師になるということ」	1	学習指導案について　④ 共有
2	課題①の共有	2	模擬授業について
3	学習指導要領を理解する　① 高等学校学習指導要領解説第１章　総説	3	**第１回模擬授業** （ 「表現」の授業　① 導入部を中心に ）
4	学習指導要領を理解する　② 高等学校学習指導要領解説第２章第７節　工芸Ⅰ	4	第１回模擬授業のふり返り （導入部の意義と活用できる教育方法）
5	学習指導要領を理解する　③ 高等学校学習指導要領解説第２章第８節　工芸Ⅱ	5	**第２回模擬授業** （ 「表現」の授業　② 展開部を中心に ）
6	学習指導要領を理解する　④ 高等学校学習指導要領解説第２章第９節　工芸Ⅲ	6	第２回模擬授業のふり返り （展開部における教材、教材研究の重要性）
7	学習指導要領を理解する　⑤ 高等学校学習指導要領解説第３章および年間指導計画例	7	**第３回模擬授業** （ 「表現」の授業　③ まとめを中心に ）
8	新学習指導要領を理解する　① 中学校学習指導要領解説第１章　総説	8	第３回模擬授業のふり返り （まとめの意義と授業の計画、実践、評価）
9	新学習指導要領を理解する　② 中学校学習指導要領解説第２章第１節　１ 教科の目標	9	**第４回模擬授業** （「表現」の授業　④ 鑑賞を中心に ）
10	新学習指導要領を理解する　③ 中学校学習指導要領解説第２章第２節　１ 内容の構成	10	第４回模擬授業のふり返り （「表現」の授業における「鑑賞」の意味）
11	新学習指導要領を理解する　④ 中学校学習指導要領解説第２章第２節 ２ 各領域及び〔共通事項〕の内容	11	**第５回模擬授業** （ 「鑑賞」の授業 ）
12	新学習指導要領を理解する ⑤ 中学校学習指導要領解説第４章 指導計画の作成と内容の取扱い	12	第５回模擬授業のふり返り （鑑賞の授業と活用できる教育方法）
13	学習指導案について　① 題材の選定 （題材設定の理由）（郷土文化理解としての工芸の学習）	13	大量生産の工業製品と工芸家の作品および民芸について
14	学習指導案について　② 指導計画	14	教師の仕事について
15	学習指導案について　③ 評価	15	レポート課題「教師になるということ」および総括

■**履修上の留意点**（授業以外の学習方法を含む）

「教育原理」を履修済みであること。

■**成績評価の方法**

【方法】リアクションペーパーの記入（６０％）、学習指導案作成への取り組み（１０％）
模擬授業への取り組み（２０％）、レポート課題（１０％）

【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■**教科書・参考文献（作品）等**

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月　文部科学省）。
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月 31 日公示）比較対照表（文部科学省）。
中学校学習指導要領解説　美術編（平成 29 年 6 月　文部科学省）。
高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月　文部科学省）。
高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽　美術　工芸　書道）編（平成 21 年 7 月　文部科学省）。
工芸の教育（大坪圭輔著　武蔵野美術大学出版局）。
工芸Ⅰ（日本文教出版　教科書）、工芸Ⅱ（日本文教出版　教科書）。
民芸　理論の崩壊と様式の誕生（出川直樹著　株式会社新潮社）。
『学習指導要領』文部科学省。
『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』文部科学省検定済み教科書、その他随時教示・提示する。

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61054	音楽科教育法Ⅰ	２単位 後期	2	講義	大山　伸子（非）

■テーマ　基礎技能の習得および楽曲の課題修得と教材研究への取り組み

■授業概要

基礎技能の習得として「音楽とリズム」（ダルクローズメソッド）の学習、及び楽曲の教材研究を通して題材の展開例や指導の方法論を学ぶ。

■到達目標

・ダルクローズメソッド（リトミック）を基軸に音楽とリズムについて習得する。**【授業計画・方法　①～⑥】**
・教材研究として課題の歌唱とピアノ伴奏法を獲得し、題材の展開を工夫する。**【授業計画・方法　（ア）～（コ）】**
・作曲家人物研究や音楽教育史・音楽教育メソッドおよび学習指導要領についてレポート課題を提出する。

■授業計画・方法

第１回：	オリエンテーション	ガイダンス・授業全体についての説明
第２回：	ビデオ学習	ダルクローズメソッド（リトミック）の概要
第３回：	基礎技能の習得①	基礎リズム
	教材研究（ア）	「歌えバンバン」歌唱＆ピアノ伴奏法と展開の工夫
第４回：	基礎技能の習得②	リズムパターン＆リズムフレーズ
	教材研究（イ）	「うみ」歌唱＆ピアノ伴奏法と展開の工夫
第５回：	基礎技能の習得③	楽曲による身体即興表現　　イメージ表現（１）グループ発表
	教材研究（ウ）	楽曲：熊蜂の飛行（リムスキーコルサコフ）を題材にして
第６回：	基礎技能の習得④	楽曲による身体即興表現　　イメージ表現（２）グループ発表
	教材研究（エ）	楽曲：学生の専攻楽器による自作曲を題材にして
第７回：	基礎技能の習得⑤	ソルフェージュ/「高校音楽教科書 MUSA」より
	教材研究（オ）	「安里屋ユンタ」ピアノまたは三線伴奏法と展開の工夫
第８回：	基礎技能の習得⑥	ポリリズム＆カノン
	教材研究（カ）	「ふるさと」二部唱＆ピアノ伴奏法と展開の工夫
第９回：	ビデオ学習	「大きな古時計」のルーツ
	教材研究（キ）	「大きな古時計」歌唱＆ピアノ伴奏法（楽器は任意）と展開の工夫
第10回：	作曲家人物研究	ヘンリー・クレイ・ワーク
	教材研究（ク）	作者研究　　レポート課題
第11回：	アンサンブル	６手ピアノ連弾奏法
	教材研究（ケ）	「ジブリ音楽」他、約１０曲から選曲し演奏する
第12回：	作曲家人物研究	滝廉太郎
	ビデオ学習	「わが愛の譜」滝の生涯と作品を辿る
第13回：	作品研究	滝廉太郎
	教材研究（コ）	「荒城の月」歌唱＆ピアノ伴奏法と展開の工夫
第14回：	日本の学校音楽教育史＆音楽教育メソッド	レポート課題の説明
第15回：	学習指導要領の変遷	まとめ・定期試験なし

①～⑥はダルクローズメソッドによる音楽とリズムを中心とした基礎技能の習得
（ア）～（コ）は楽曲課題の教材研究

■履修上の留意点

・予習型授業が中心で、実技課題を準備学習して授業に臨む。
・授業計画・方法の教材研究（ア）～（コ）は、各回授業の前回授業に課題を受け、次回授業に発表し評価を受ける。
・楽曲の題材を生かした展開例を工夫する。

口準備するもの：①～⑥の音楽リズム学習は身体表現を行うので軽装で動きやすいシューズで臨むこと。

■成績評価の方法・基準

【方法】①出席及び受講態度(平常点 60 点/37.5%)　②実技課題（70 点/43.75 %)　③レポート課題（30 点/18.75%)

【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献

□教科書：特になし

□テキスト：授業に必要な資料（プリント）を配布する。

□参考文献：

「中学校音楽教科書」教育芸術社

「高等学校音楽教科書 MUSA Ⅰ・Ⅱ」教育芸術社

「中学校・高等学校教職課程音楽科教育法」教育芸術社

「中学校学習指導要領」教育芸術社

「高等学校学習指導要領」教育出版。　　その他、参考資料等は都度、提示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61055	音楽科教育法Ⅱ	４単位 通年	３	講義	小波津繁雄（非）

■テーマ　中学校及び高等学校の音楽科教員として必要とされる基礎的な能力や資質の向上を図る。

■授業の概要

音楽教育に関する主な法規や教育課程及び学習指導要領を把握し、内容を理解した上で、音楽教科における教材研究や学習指導の方法、指導計画及び観点別学習評価や具体の評価規準、学習指導案の作成方法などについて学び実践指導や模擬授業を行う。

■到達目標

（１）教科書に掲載されている主な教材（楽曲）の指導並びにピアノ伴奏ができる。
（２）器楽（リコーダー）の基礎指導ができる。
（３）教材研究を行い学習指導案を作成できる。
（４）学習指導案に基づき模擬授業ができる。

■授業計画・方法

１．オリエンテーション、授業内容の説明
２．中学校・高等学校音楽科学習指導要領の内容理解
３．音楽科の目標や教育課程について
４．各領域と共通事項の内容確認
５．指導内容について
６．教材研究の方法と資料作成（ＩＣＴ活用方法について）
７．指導計画の作成方法
８．略指導案（本時の展開）試作　**※以下第９回～第 14 回において各自 15 分授業実践体験**
９．学習指導案の作り方と作成手順
10．題材設定の立て方と観点別指導目標
11．指導目標と評価規準の関わり及び評価方法
12．学習指導案の事例研究
13．模擬授業の内容研究と学習指導案作成（１）―解説―
14．模擬授業の内容研究と学習指導案作成（２）―実践―
15．**前期実技テスト（ピアノ弾き歌い）**
16．模擬授業体験（第１グループ）：中学１年の歌唱関連教材
17．模擬授業体験（第２グループ）：中学２年の歌唱関連教材
18．模擬授業体験（第３グループ）：中学３年の歌唱関連教材
19．模擬授業体験（第４グループ）：創作指導関連教材
20．模擬授業体験（第５グループ）：器楽（リコーダー）関連教材
21．模擬授業体験（第６グループ）：鑑賞関連教材
22．模擬授業体験（第７グループ）：高等学校の教材関連
23．模擬授業のまとめ
24．教科の授業以外の音楽活動（学校行事、合唱コンクール、部活動運営）
25．教育実習について（目的、プロセス、事前準備、実習内容、実習心得、研究授業）
26．教員の職務、学校運営、校務分掌について
27．指揮法の基本と実践
28．合唱教材の事例研究と指揮法実践
29．**後期実技テスト（リコーダー）**
30．授業の振り返りとまとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・受講者は、音楽科教育法Ⅰを履修しておくこと。

・アルトリコーダー（B式）を準備すること。

・ＰＣにより指導案作成（ｗｏｒｄ）及びｅメール操作ができること。

■成績評価の方法・基準

【方法】

平常点(30%)、模擬授業・指導案・自己評価(35%)、実技テスト(25%)、授業への関心・意欲・態度(10%)

【基準】

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

①２０１２年改訂版、中学校・高等学校教職課程「音楽科教育法」：教育芸術社発行

②中学校学習指導要領解説「音楽編」：教育芸術社

③高等学校学習指導要領解説「芸術」編：教育芸術社

④中学生の音楽１，音楽２・３上、音楽２・３下、中学生の器楽、：教育芸術社

⑤高等学校音楽教科書Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ　：教育芸術社

□テキスト　随時教員が配布

□参考文献　平成 29 年度全日本音楽教育研究大会沖縄大会資料

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61056	音楽科教育法Ⅲ	２単位 前期	４	講義	小波津　繁雄（非）

■テーマ　中学校・高等学校音楽科の教育目標や、教育者としての育成を目指す資質・能力について理解し、その基礎の上に目標の実現を目指す。

■授業の概要

中学校・高等学校の音楽教員として身に付けるべき、表現及び鑑賞の各指導において指導力を高めるため、教材研究及び模擬授業を通して指導力の向上に努める。

■到達目標

・共通教材の教材研究及び模擬授業
・器楽（リコーダー）の教材研究及び模擬授業
・鑑賞教材の教材研究及び模擬授業

■授業計画・方法

１．オリエンテーション、授業の内容及び進め方について
２．中学生の音楽１の共通教材の理論研究及びピアノ伴奏指導
３．中学生の音楽２・３上の共通教材の理論研究及びピアノ伴奏指導
４．中学生の音楽２・３下の共通教材の理論研究及びピアノ伴奏指導
５．中学生の器楽教材の理論研究及びピアノ伴奏指導
６．鑑賞教材の効果的な指導法及びワークシートの作り方
７．A表現（歌唱）の模擬授業①と評価
８．A表現（器楽）の模擬授業②と評価
９．B鑑賞の模擬授業③
10．高校生の音楽教科書の教材研究
11．高校生の音楽A表現、B鑑賞関連の模擬授業④
12．リコーダーアンサンブル指導法
13．リコーダーオーケストラ指導法
14．**実技試験（ピアノ伴奏、リコーダーアンサンブル）**
15．授業の振り返りとまとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・音楽科教育法Ⅱを履修しておくこと
・中学校音楽共通教材のピアノ伴奏を自主練習すること。
・リコーダーの基礎的な奏法を習得しておくこと。

■成績評価の方法・基準

【方法】平常点(30%)、ピアノ実技テスト(30%)、リコーダー実技テスト(30%)、授業態度(10%)
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教 科 書：中学生の音楽１、２・３上、２・３下、器楽の本、高校生の音楽　：教育芸術社発行
□テキスト：随時配布
□参考文献：リコーダー：吉澤実　著

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61034	道徳教育の研究	２単位 前期	2	講義	芳澤　拓也

■テーマ　**道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標や内容、指導計画等を理解する。また、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につける。**
なお、この授業は、「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」・「教育課程及び指導法に関する科目（道徳の指導法）」となっています。

■授業概要　**【題目】「道徳」をめぐる教育実践**

現場に入ると、中学校の学級担任は週１時間「道徳の時間」を指導することになります。この授業は、その準備を行うために設定されています。授業では、道徳の意義や原理、学校教育における位置づけの理解等を踏まえ、①道徳教育方法の事例検討、②現場で展開されている「道徳」をめぐる授業実践（指導法）の検討、そして③「道徳」の授業の構想と学習指導案の作成を行っていきます。

なお、この講義は、美術工芸学部、琉球芸能専攻、H27 年以前入学の音楽学部の学生を対象としています。

■到達目標

①学校教育における道徳の授業の意味、位置づけについて他者に解説できる。
②道徳の授業構想、教材研究、指導案作成を行うことができる。
③他者と協力して授業を構想、実践することができるようになる。

■授業計画・方法

	授業内容	準備学習
1	「道徳（教育）」とは何かー学校教育における道徳ー	特になし
2	道徳性の発達理論	授業後、授業内容のふりかえりを行って下さい。この授業では、模擬授業の実践へ向けてグループ活動を予定しています。グループリーダーを中心に、生産的な意見交換、批判、援助と支援を可能にする関係作りを意識して欲しいと考えています。また、授業内外で話合いが要求されます。議論を深めるためにも、広く社会へ向けてセンサーを広げて欲しいと考えています。
3	教育現場で活用されるモラルジレンマ課題	
4	事例検討①ー「家族」をめぐる授業ー	
5	教材研究・テキストリーディング「家族」	
6	事例検討②ーセクシュアルマイノリティと学校ー	
7	アクティブラーニングーgoing dottyー	
8	アクティブラーニングーSST「リフレーミング」	
9	事例検討③ー「いじめ」をめぐる授業ー	
10	学習指導要領と学習指導案	
11	学習指導案と授業構想②ー目標・指導・評価ー	
12	学習指導要領と授業構想③ー徳目主義、心情主義についてー	
13	模擬授業①ーテーマの設定・選定についてー	
14	模擬授業②ー教材研究についてー	
15	模擬授業③ー授業の展開と評価についてー　まとめ	

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

教育原理を履修済みであること。

この授業では、グループ活動や発表等、みなさんの自主的な参加を求めるワークを行う予定です。

■成績評価の方法

【方法】平常点（20%）、模擬授業、作成した学習指導案、レポート（80%）
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説ー道徳編ー』
他の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61035	特別活動	２単位 後期	3	講義	芳澤　拓也 新里　健（非）

■テーマ　学校教育における特別活動の意義と位置づけを理解し、教員が見通しをもって特別活動を展開していることを理解する。

■授業概要　【題目】「特別活動」の研究

「特別活動」とは、端的に言って学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事などのことです。いわゆる「教科」とは異なるこの領域には、「集団活動」を行うことができるというメリットがあります。そこでは、①中学生、高校生に自主的、実践的な態度を育てる、②人間としての生き方についての自覚と自己実現を図る能力を育成することが目指されます。授業では、①、②の視点を意識しながら「特別活動」の教育的意義、目標、特質、内容および教師に求められる指導法と実践上の留意点を考えていきたいと考えています。なお、この授業は「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」・「教育課程及び指導法に関する科目（特別活動の指導法）」となっています。

■到達目標

①学校教育における特別活動の意義と位置づけを他者に説明できる。
②特別活動における教師の見通しについて他者に説明できる。
③生徒たちの作る関係に働きかける特別活動を構想できる。

■授業計画・方法

	授業内容	準備学習
1	特別活動とは何かー学習指導要領における特別活動の位置づけー	特になし
2	特別活動の歴史	授業後、授業内容のふりかえりを行って下さい。授業で学んだ内容に関わって広く社会へ向けてセンサーを広げて欲しいと考えています。授業時間外において、情報を収集したり、読書をしたりしてください。
3	特別活動における指導の目的と計画	
4	教室内の人間関係①ー「スクール・カースト」とは何かー	
5	教室内の人間関係②ー「スクール・カースト」をどう読むかー	
6	学級経営における指導の見通し	
7	学級経営に生かすソーシャル・スキル・トレーニング① ーSST の技法ー	
8	学級経営に生かすソーシャル・スキル・トレーニング② ーSST の実践ー	
9	特別活動の計画と指導案ー学級活動、生徒会活動、学校行事ー	
10	学級経営案の作成	
11	指導の目標と方法	
12	特別活動の評価	
13	キャリア教育の現在ー「職場体験」、「インターンシップ」ー	
14	発達障がいのある生徒と特別活動	
15	まとめー居場所としての学校ー	

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

教職課程関連の所定の科目を履修済みであること。

■成績評価の方法

【方法】平常点（20%）、発表、レポート、小テスト、期末試験（80%）
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領　解説ー特別活動編ー』、『高等学校学習指導要領　解説ー特別活動編ー』。
他の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61042 61045	中学校教育実習 中学校教育実習（長期） （事前・事後指導を含む）	５単位 前期	4	講義 実習	松田　盛雄 芳澤　拓也

■テーマ　観察・参加・実習という方法で学校現場における教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。

■授業概要

「教育実習」は、大学における事前指導、学校現場における教育実習、大学における事後指導の３部から構成され、これらすべての授業・実習に参加することによって単位が認定される。学校現場における教育実習は大学で習得した一般教養の知識、専門教科や教職科目に関する理論や技術を、実際の学校教育の場面で生徒との直接的なふれ合いの過程を通して、応用する貴重な機会である。経験豊な指導教諭のもとで指導を受け、教職体験を積みながら、教員に必要とされる基礎的な知識や技能を修得し、教員となるための教育実践の基礎的能力と態度を培うことを目標とする。

なお、中学校教育実習（長期）については、平成30年度入学生を対象としたものである。

■到達目標

①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
②生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
③指導教員等の実施する授業を自分なりの視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
⑤学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。
⑥学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
⑦学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身につけるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
⑧学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。
⑨教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わることができる。
⑩学校現場における教育実習を総括し、教員となるための基礎的能力と態度について意見を述べることができる。

■授業計画・方法

【事前指導】（５月上旬）

教育実習に先立ち行なわれる事前指導は、中学校や高等学校の教員及び教育センターの指導主事など指導的立場にある現職教員による特別講義と本学の教職課程の教員で以下の内容で講義を分担する。講義を通して教育現場に関する知識や実情を習得し、派遣実習校での実習が円滑で実り豊かなものとなるようにする。

1　教育実習の意義と目的、内容
2　中学校の教育と教育実習生に望むこと
3　特別活動について
4　生徒指導・教育相談について
5　ホームルーム活動について
6　中学校美術科・中学校美術科の指導と展開（学習指導案の作り方）
7　中学校美術科・中学校音楽科の指導と展開（学習指導案の作り方）
8　中学校の現状と課題への対応
9　卒業生と語る・具体的アドバイス
10　教育実習の心構えと注意すべき事項
11　「道徳の時間」の指導
12　学級経営について
13　研究授業の持ち方①　導入・展開・まとめ
14　研究授業の持ち方②　評価
15　事前指導のまとめ

【教育実習】

本県では毎年９月に指定された期間、県外はそれぞれの実習校の指定した日程で実施する。中学校の教育活動を実際に体験し、生徒への理解を深めるとともに、美術・音楽の教科指導、道徳教育の実践的指導能力を高める。また、学級活動や学校行事等の特別活動に参加し、学校における教職員の職務を理解して、中学校の教員として必須の基礎的能力や資質を育成することを目標とする。なお、具体的な教育実習期間は教育実習校との調整によって決定される。

【事後指導】

実習終了後の事後指導は、学生各自が教育実習から得た実習体験について、学生間で広く意見交換を行なう。加えて、実習体験記を『龍樋ー教育実習体験記』（第２８号）に掲載し刊行する。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

実習校の評価、事前・事後指導における平常点や課題提出などを総合的に評価する。

■成績評価の方法

【方法】実習校による評価、事前指導・事後指導における平常点、および提出物（先輩からのアドバイス、教育実習体験発表会レジュメ、教育実習体験記『龍樋』等）

【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□参考図書：『新編　教育実習の常識』教育実習を考える会　蒼丘書林　2000 年

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61043 61046	高等学校教育実習 高等学校教育実習（短期） （事前・事後指導を含む）	３単位 前期	4	講義 実習	松田　盛雄 芳澤　拓也

■テーマ　観察・参加・実習という方法で学校現場における教育実践に関わることを通し、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。

■授業概要　【題目】教育実習への自覚と期待

「教育実習」は、大学における事前指導、学校現場における教育実習、大学における事後指導の３部から構成され、これらすべての授業・実習に参加することによって単位が認定される。学校現場における教育実習は大学で習得した一般教養の知識、専門教科や教職科目に関する理論や技術を、実際の学校教育の場面で生徒との直接的なふれ合いの過程を通して、応用する貴重な機会である。経験豊な指導教諭のもとで指導を受け、教職体験を積みながら、教員に必要とされる基礎的な知識や技能を修得し、教員となるための教育実践の基礎的能力と態度を培うことを目標とする。

なお、高等学校教育実習（短期）については、平成30年度入学生を対象としたものである。

■到達目標

①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
②生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
③指導教員等の実施する授業を自分なりの視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
⑤学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。
⑥学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
⑦学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身につけるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
⑧学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。
⑨教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わることができる。
⑩学校現場における教育実習を総括し、教員となるための基礎的能力と態度について意見を述べることができる。

■授業計画・方法

【事前指導】（５月上旬）

教育実習に先立ち行なわれる事前指導は、中学校や高等学校の教員及び教育センターの指導主事など指導的立場にある現職教員による特別講義と本学の教職課程の教員で以下の内容で講義を分担する。講義を通して教育現場に関する知識や実情を習得し、派遣実習校での実習が円滑で実り豊かなものとなるようにする。

1　教育実習の意義と目的、内容
2　高等学校の教育と教育実習生に望むこと
3　特別活動について
4　生徒指導・教育相談について
5　ホームルーム活動について
6　高等学校美術科・高等学校美術科の指導と展開（学習指導案の作り方）①
7　高等学校美術科・高等学校音楽科の指導と展開（学習指導案の作り方）②
8　高等学校の現状と課題への対応
9　卒業生と語る・具体的アドバイス
10　教育実習の心構えと注意すべき事項
11　中学校における「道徳の時間」の指導
12　学級経営について
13　研究授業の持ち方①　導入・展開・まとめ
14　研究授業の持ち方②　評価
15　事前指導のまとめ

【教育実習】

本県では毎年６月に指定された期間、県外はそれぞれの実習校の指定した日程で実施する。中学校の教育活動を実際に体験し、生徒への理解を深めるとともに、美術・音楽の教科指導、道徳教育の実践的指導能力を高める。また、学級活動や学校行事等の特別活動に参加し、学校における教職員の職務を理解して、中学校の教員として必須の基礎的能力や資質を育成することを目標とする。なお、具体的な教育実習期間は教育実習校との調整によって決定される。

【事後指導】

実習終了後の事後指導は、学生各自が教育実習から得た実習体験について、学生間で広く意見交換を行なう。加えて、実習体験記を『龍樋ー教育実習体験記』（第２８号）に掲載し刊行する。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

実習校の評価、事前・事後指導における平常点や課題提出などを総合的に評価する。

■成績評価の方法

【方法】欠席、遅刻、各課題に関する提出物の未提出についてはきびしく評価する。
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□参考図書　『新編　教育実習の常識』教育実習を考える会　蒼丘書林　2000 年

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61044	教職実践演習（A）（B） （A）クラス （B）クラス	各２単位 後期	4	講義	松田　盛雄 芳澤　拓也

■テーマ　教育実習実施後に行われるこの授業は、教職課程の履修プロセス全体のまとめとして位置づいている。授業を通して、以下の 6 点について確認していく。①教育に対する使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③生徒理解や学級経営、④教科内容等の指導力、⑤自分の得意分野を活かす力、⑥教育相談能力

■授業概要　【題目】教師としての基礎的資質能力の形成

授業では第一に、教師としての使命感、責任感、教育的愛情を含む教職論、及び学校教育現場における組織・運営の実際的理解、第二に、ロールプレイ、事例検討・討論などの演習を中心に、生徒理解、学級経営、教育相談、地域における教員の役割などについての理解を深めること、第三に、専門をより現場に即した形で活かした授業作りに取り組むための模擬授業の三点を内容としている。その中で、教師としての基礎的資質能力の形成を目指す。

なおこの授業は、①受講者全員にて行う全体授業、②２クラスに別れて行う授業（1 クラス 20〜30 名程度）③教科ごとにクラスを再編して行う授業（美術工芸学部、音楽学部に別れる）、④教職実践演習担当教員と外部講師とによって行われる授業によって構成される予定である。

■到達目標

教職実践演習の設置理由（文部科学省）、及び本学教職課程委員会の理念を基礎にしつつ、教職課程終了時における教師としての基礎的資質能力の形成について、評価、確認を行う。

①教育に対する使命感や責任感、教育的愛情の必要を再確認する。（教育に対する使命感や責任感、教育的愛情）
②グループワークや討論において役割を果たすことができる。（社会性や対人関係能力）
③生徒理解や学級経営の具体や意義を解説することができる。（生徒理解や学級経営）
④授業を計画・実践・評価できる（教科内容等の指導力）
⑤教育活動において自身の特性を活かすことの重要性を理解する。（自分の得意分野を活かす力）
⑥生徒・保護者・地域との関わりの具体や意義を解説することができる。（教育相談能力）

■授業計画・方法

（1）全体オリエンテーション、授業の目的と概要、履修カルテの点検（講義）
（2）教師の仕事・学校の組織ー（講義）
（3）教育行政ー教員養成・採用・研修ー（講義）
（4）学校の組織ー実務・協働・校務分掌の意義と討議ー（講義・演習）
（5）学校現場等へのフィールドワーク
（6）「いじめ・不登校」と教育相談ーカウンセリングマインドの必要性ー（ロールプレイ・討議）
（7）生徒、保護者とのコミュニケーションについて（事例検討・討議）
（8）学級経営に活かすソーシャル・スキル・トレーニング（討議・演習）
（9）学級経営を考える（講義）
(10) 学級経営案の作成（演習・討議）
(11) 学級経営案の発表（発表と相互評価・討論）
(12) 学習指導案（美術工芸学部、音楽学部）の作成（講義・演習）
(13) 模擬授業（演習）教材研究と学習指導案
(14) 模擬授業（演習）指導の方法
(15) まとめー履修カルテを活用したこれまでの学修の振り返りー（全体討議・講義）

■成績評価の方法

【方法】提出物（学級経営案・学習指導案、レポートなど）50%、平常点 50%。
【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』、その他参考文献は、授業の中で適宜紹介する。